

自然薯栽培、就農2年目 「日々謙虚に感謝忘れず」

周南市 小笠原高志さん



【山口】周南市で就農2年目を迎える小笠原高志さん(40)＝写真。約16年間勤めたスーパ―を退職し、次の職を探すなかで自然薯を栽培する村

田将弘さんに出会った。村田さんと農作業をするうちに自然薯への関心が高まり、就農を決意。村田さんから指導を受けながら一緒に作業し、その代わりに種芋などの普及事業を手伝うなど、お互いに労働力をシェアしている。

昨年度は、経営規模・収量ともに目標を上回り、良い出だしとなった。この1年間、村田さんの指導のおかげで、仕事の生産性に何度も気づかせてもらった。「経営とは何なのかを村田さんからしっかりと学び、自

然薯の栽培技術の基本を確実に身につけたい」と小笠原さんは話す。

今後の課題は、3畝の農地を確保し毎年1畝ずつ輪作すること。農地利用最適化推進委員や地元の人との信頼関係を大切にしたい。比較的作業が少ない夏場に出荷できる作物を、農作業の好きな両親と一緒に作りたい」と話す小笠原さんは、自分を支えてくれている人への感謝を忘れず、日々謙虚に農業を学び、自分のものにしようとする努力する意欲にあふれている。

(周南市農業委員会)